



平成27年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成27年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブレインパッド

コード番号 3655 URL <http://www.brainpad.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 草野 隆史 (戸籍名: 高橋 隆史)

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 石川 耕 TEL 03-6721-7001

四半期報告書提出予定日 平成27年2月12日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無: 有

四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年6月期第2四半期の連結業績 (平成26年7月1日～平成26年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年6月期第2四半期	1,342	9.1	111	39.1	77	34.7	△72	ー
26年6月期第2四半期	1,230	37.8	79	16.9	57	3.9	25	△19.5

(注) 包括利益 27年6月期第2四半期 △70百万円 (ー%) 26年6月期第2四半期 27百万円 (△13.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年6月期第2四半期	△10.85	ー
26年6月期第2四半期	3.83	3.66

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年6月期第2四半期	2,003	1,087	54.1
26年6月期	1,837	1,156	62.8

(参考) 自己資本 27年6月期第2四半期 1,084百万円 26年6月期 1,153百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年6月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
27年6月期	ー	0.00	ー	ー	ー
27年6月期(予想)	ー	ー	ー	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 平成27年6月期の連結業績予想 (平成26年7月1日～平成27年6月30日)

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

平成27年6月期の業績予想につきましては、売上高と営業利益は平成26年6月期を上回ると見込んでおります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年6月期2Q	6,730,772株	26年6月期	6,706,932株
② 期末自己株式数	27年6月期2Q	34株	26年6月期	34株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年6月期2Q	6,714,138株	26年6月期2Q	6,660,929株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

2. 四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税後の落ち込み以降、雇用・所得関連が改善傾向を示す中で生産や個人消費にも回復の動きが見られ、円安による輸出の増加基調もあり、景気全体としては緩やかな回復基調に戻つつあります。企業収益の持ち直しを背景に、企業の設備投資意欲は底堅さを維持しており、国内のITサービス市場は堅調な成長を続けております。

このような中、当社グループは、国内におけるビッグデータの利活用に対する認知度向上を追い風とし、データ分析のリーディングカンパニーとして、データ分析に関連する3事業をワンストップで展開できる強みを活かし、引き続き、積極的な営業活動を推進いたしました。

当第2四半期連結累計期間においては、売上高は、前年同四半期に大型案件の受注のあったソリューション事業は減収となったものの、3事業ともに概ね好調に推移いたしました。

利益面は、営業利益においては、売上高の伸長による利益増に加え、前年同四半期には本社オフィス移転に係る一時的費用の発生があったことから、大きく改善いたしました。経常利益においては、営業外費用に、立ち上げ期にある株式会社Qubitalデータサイエンス(当社の持分法適用関連会社)に係る持分法による投資損失35,924千円の計上があったものの、前年同四半期には市場変更に伴う一時的費用の発生があったこともあり、営業利益同様に、大きく改善いたしました。

一方、2013年8月に連結子会社化した株式会社ミディーは、新規事業立ち上げのための先行投資により赤字が続いていることから、このたび、現在の事業の状況をふまえて事業計画の見直しを行い、投資費用の回収が困難であると判断し、子会社化の際に発生したのれんおよび当社が保有する固定資産に係る減損損失69,946千円を特別損失として計上いたしました。加えて、当社が保有する投資有価証券について、実質価額が著しく下落したことによる投資有価証券評価損20,100千円を特別損失として計上したこともあり、四半期純利益は大きく減少いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,342,329千円(前年同四半期比9.1%増)、営業利益111,127千円(前年同四半期比39.1%増)、経常利益77,820千円(前年同四半期比34.7%増)、四半期純損失72,879千円(前年同四半期は四半期純利益25,529千円)となりました。上記のとおり、当四半期においては、関係会社およびその他投資先に係る損失処理の影響により四半期純利益が赤字となりましたが、第3四半期以降、株式会社ブレインパッド単体において引き続き堅調な成長を実現し、通期での黒字回復を目指してまいります。

なお、上記の持分法による投資損失および特別損失の内容については、本日付にて「持分法による投資損失および特別損失の計上に関するお知らせ」を公表しておりますので、合わせてご参照ください。

続きまして、セグメント別の業績は次のとおりです。

(アナリティクス事業)

アナリティクス事業は、企業の有する大量データを分析するデータマイニングと、その分析結果に基づく企業行動の最適化支援を、幅広い顧客向けに提供している当社グループの主要事業です。

当第2四半期連結累計期間におきましては、引き続き、データ分析に係る様々な業種からの受託分析業務が好調に推移し、立ち上げ期にある連結子会社(博洋信息服务(大连)有限公司(中国現地法人)および株式会社ミディー)の費用を吸収し、安定的に収益を確保いたしました。

この結果、売上高は425,208千円(前年同四半期比7.2%増)、セグメント利益は70,584千円(前年同四半期比7.8%増)となりました。

(ソリューション事業)

ソリューション事業は、顧客企業に対して、データ分析および分析結果に基づくマーケティング活動に必要なソフトウェアのライセンス提供とシステム開発を行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、大型案件の受注のあった前年同期には及ばないものの、「SAP® InfiniteInsight®(エスエーピー・インフィニットインサイト、データマイニング・ソフトウェア)」や、「Probanse Hyper Marketing(プロバンス・ハイパー・マーケティング、SaaS型(注1)キャンペーンマネジメントシステム)」において着実に新規受注を積み重ね、安定的な収益確保に注力いたしました。

また、展示会での事例講演や自社セミナーの開催などのマーケティング活動を積極的に展開し、下半期に向けた拡販体制の構築に取り組みしました。

この結果、売上高は426,744千円(前年同四半期比8.5%減)、セグメント利益は76,668千円(前年同四半期比44.9%減)となりました。

(マーケティングプラットフォーム事業)

マーケティングプラットフォーム事業は、当社が着目したデータ分析系のアルゴリズムから独自性の強いソフトウェアを自社開発し、SaaS型サービスによる顧客企業への提供と、その保守業務等を行っております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、主力サービスである「Rtoaster（アールトースター、Webプラットフォーム・レコメンドエンジン）」「L2Mixer（エルツーミキサー、リスティング広告最適化ツール）」のストックビジネス（注2）による安定的な収益確保に努めました。

また、当事業の成長を牽引するRtoasterのさらなる事業拡大に向け、株式会社ジェネレイトおよびソフトバンクテレコム株式会社とのデジタルマーケティングの支援サービスにおける協業や、アライドアーキテクト株式会社とのDMP（注3）分野におけるサービス連携を発表いたしました。

この結果、売上高は490,402千円（前年同四半期比33.5%増）、セグメント利益は216,556千円（前年同四半期比81.8%増）となり、連結業績の成長に大きく貢献いたしました。

（注1）アプリケーションソフトの機能をインターネットを通じて顧客に提供すること。

（注2）顧客数に応じて比例的に安定収益を得られるビジネスのこと。当社グループのソリューション事業におけるソフトウェアライセンスの月額サービス提供や保守サービス、マーケティングプラットフォーム事業におけるSaaS型サービスの月額利用サービスなどが、これにあたる。

（注3）Data Management Platformの略。広告主・メディア・ECサイトなどが保有するさまざまな大量データを収集・分析し、主にマーケティング用途での利用・活用を可能にするデータ基盤のこと。

（2）財政状態に関する説明

①財政状態の分析

（資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の流動資産の残高は、1,306,301千円となり、前連結会計年度末に比べ294,622千円増加しました。これは主に現金及び預金の増加355,289千円、受取手形及び売掛金の減少53,005千円によるものであります。

また固定資産の残高は、697,486千円となり、前連結会計年度末に比べ128,026千円減少しました。これは主にソフトウェアの増加54,802千円があった一方で、無形固定資産その他の減少76,155千円、のれんの減少61,414千円、有形固定資産の減少34,856千円によるものであります。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べ166,595千円増加し、2,003,787千円になりました。

（負債の部）

当第2四半期連結会計期間末の流動負債の残高は、482,469千円となり、前連結会計年度末に比べ27,356千円減少しました。これは主に短期借入金の減少100,000千円、未払費用の減少17,316千円があった一方で、1年内返済予定の長期借入金の増加60,645千円、前受収益の増加24,211千円、買掛金の増加20,730千円によるものであります。

また固定負債の残高は、434,063千円となり、前連結会計年度末に比べ262,960千円増加しました。これは主に長期借入金の増加245,057千円によるものであります。

この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ235,603千円増加し、916,533千円となりました。

（純資産の部）

当第2四半期連結会計期間末の純資産合計は、1,087,254千円となり、前連結会計年度末に比べ69,008千円減少しました。これは主に利益剰余金の減少72,879千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は54.1%となりました。

②キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、781,943千円となり、前連結会計年度末に比べ355,289千円増加しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、238,360千円（前年同期は165,517千円の収入）となりました。これは主に減価償却費127,831千円、減損損失69,946千円、売上債権の減少54,160千円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、93,495千円（前年同期は350,797千円の支出）となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出64,827千円、有形固定資産の取得による支出19,907千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、207,299千円（前年同期は199,384千円の収入）となりました。これは主に短期借入れによる収入390,000円、長期借入れによる収入330,000千円があった一方で、短期借入金の返済による支出490,000千円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後も、ビッグデータの利活用に対する関心の高まりにより、データ分析関連ビジネスを取り巻く市場は成長を続けるものと予想されます。このような中、当社グループの業績は、売上高、営業利益ともに前年を上回るものと見込んでおります。また、上記のとおり、当四半期においては、関係会社およびその他投資先に係る損失処理の影響により四半期純利益が赤字となりましたが、第3四半期以降、株式会社ブレインパッド単体において引き続き堅調な成長を実現し、通期での黒字回復を目指してまいります。（業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、経済環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。）

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度末 (平成26年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	426,653	781,943
受取手形及び売掛金	447,687	394,681
仕掛品	10,653	15,817
繰延税金資産	7,890	9,105
その他	118,793	104,752
流動資産合計	1,011,679	1,306,301
固定資産		
有形固定資産	170,710	135,853
無形固定資産		
ソフトウェア	265,828	320,631
のれん	61,414	-
その他	94,918	18,762
無形固定資産合計	422,161	339,393
投資その他の資産	232,641	222,239
固定資産合計	825,512	697,486
資産合計	1,837,192	2,003,787
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,897	67,627
短期借入金	100,000	-
1年内返済予定の長期借入金	48,996	109,641
未払金	33,130	31,421
未払費用	87,079	69,763
前受収益	61,224	85,435
未払法人税等	79,166	74,400
その他	53,330	44,180
流動負債合計	509,825	482,469
固定負債		
長期借入金	137,133	382,190
資産除去債務	33,123	33,608
その他	846	18,264
固定負債合計	171,103	434,063
負債合計	680,929	916,533

(単位：千円)

	前連結会計年度末 (平成26年6月30日)	当第2四半期連結会計期間末 (平成26年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	330,731	331,530
資本剰余金	307,431	308,230
利益剰余金	512,198	439,319
自己株式	△23	△23
株主資本合計	1,150,338	1,079,056
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	2,717	5,143
その他の包括利益累計額合計	2,717	5,143
新株予約権	3,206	3,054
純資産合計	1,156,263	1,087,254
負債純資産合計	1,837,192	2,003,787

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
売上高	1,230,599	1,342,329
売上原価	730,808	801,231
売上総利益	499,791	541,097
販売費及び一般管理費	419,925	429,970
営業利益	79,866	111,127
営業外収益		
受取利息	114	16
業務受託料	2,032	3,662
その他	358	1,388
営業外収益合計	2,505	5,067
営業外費用		
支払利息	601	658
支払手数料	19,597	-
持分法による投資損失	-	35,924
その他	4,404	1,791
営業外費用合計	24,603	38,374
経常利益	57,767	77,820
特別利益		
新株予約権戻入益	61	152
特別利益合計	61	152
特別損失		
投資有価証券評価損	-	20,100
減損損失	-	69,946
特別損失合計	-	90,046
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	57,828	△12,074
法人税、住民税及び事業税	43,283	70,738
法人税等調整額	△10,826	△9,694
法人税等合計	32,456	61,043
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	25,371	△73,117
少数株主損失(△)	△158	△238
四半期純利益又は四半期純損失(△)	25,529	△72,879

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	25,371	△73,117
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,947	2,664
その他の包括利益合計	1,947	2,664
四半期包括利益	27,319	△70,453
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	27,319	△70,453
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	57,828	△12,074
減価償却費	116,298	127,831
減損損失	-	69,946
のれん償却額	4,724	9,448
投資有価証券評価損益(△は益)	-	20,100
受取利息及び受取配当金	△114	△16
支払利息	601	658
持分法による投資損益(△は益)	-	35,924
為替差損益(△は益)	914	△2,035
新株予約権戻入益	△61	△152
売上債権の増減額(△は増加)	△2,852	54,160
たな卸資産の増減額(△は増加)	△45,808	△5,158
仕入債務の増減額(△は減少)	83,895	19,117
未払金の増減額(△は減少)	318	△915
未払費用の増減額(△は減少)	△11,040	△21,661
前受収益の増減額(△は減少)	△8,773	24,211
その他	△19,367	△7,865
小計	176,562	311,519
利息及び配当金の受取額	114	16
利息の支払額	△589	△826
法人税等の支払額	△10,570	△72,348
営業活動によるキャッシュ・フロー	165,517	238,360
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△149,505	△19,907
無形固定資産の取得による支出	△180,722	△64,827
投資有価証券の取得による支出	-	△10,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△30,233	-
敷金及び保証金の差入による支出	△1,131	-
敷金及び保証金の回収による収入	23,322	1,239
その他	△12,526	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	△350,797	△93,495
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	350,000	390,000
短期借入金の返済による支出	△300,000	△490,000
長期借入れによる収入	150,000	330,000
長期借入金の返済による支出	△7,548	△24,298
新株予約権の行使による株式の発行による収入	6,429	1,597
新株予約権の発行による収入	503	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	199,384	207,299
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,708	3,125
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	16,812	355,289
現金及び現金同等物の期首残高	368,412	426,653
現金及び現金同等物の四半期末残高	385,225	781,943

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アナリティクス事業	ソリューション事業	マーケティングプラットフォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	396,759	466,361	367,478	1,230,599	—	1,230,599
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	396,759	466,361	367,478	1,230,599	—	1,230,599
セグメント利益	65,450	139,107	119,085	323,642	△243,776	79,866

(注) 1 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△243,776千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等における一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	アナリティクス事業	ソリューション事業	マーケティングプラットフォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	425,182	426,744	490,402	1,342,329	—	1,342,329
セグメント間の内部 売上高又は振替高	25	—	—	25	△25	—
計	425,208	426,744	490,402	1,342,354	△25	1,342,329
セグメント利益	70,584	76,668	216,556	363,809	△252,681	111,127

(注) 1 セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△252,681千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等における一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第2四半期連結累計期間において、株式会社ミディーの株式取得により発生したアナリティクス事業に係るのれん及び同社が保有する一部の固定資産について当初想定していた収益が見込めなくなったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当該事象における減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間において69,946千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

上記「固定資産に係る重要な減損損失」に記載した減損損失による、のれんの減少額は、当第2四半期連結累計期間において51,966千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。